

冰惑星

——
草案
——

水惑星

——草案——

曲柄 五番目・切能物・一場
季節 冬

〔前置き〕

本作は漸く物語の体裁をとった草稿に、ただ雰囲気から謡の記号の様な物を付記した戯物である。韻も字数も未熟の故、流石に不遜な作者も節博士までは記せずにサシ上歌と云った辺で諦めている。素人仕事の数箇月ではこの程度が限度であろう。伝統芸能を嘗めてはいけない。

〔典拠〕

クラーク・ダールトン著「燃える水惑星」Clark Danton PERKY RHODAN 33 Etswell in Flammen (早川書房ハヤカワSF文庫SF-153 宇宙英雄ローダン・シリーズへ17) 『燃える水惑星』ダールトン&ブランド/松谷健二訳収録)に題材を採った。

〔解説〕

地球から三二〇光年のベータIIアルビレオ系第二惑星は極寒の水惑星。銀河商人スプリングアのオルガンズ氏族の族長オルガンズ(ワキ)は、宇宙船《オルラXI》で氷

惑星に着陸する。じつは、銀河商人は新興勢力である地球が独自に星間貿易を始めたことを快く思っていない。先日も地球人の一団を捕虜としたものの、捕虜五名は隙をついてこの水惑星に逃げ込み、以後再三の捜索にも拘らず捕えることが出来ぬままである。業を煮やした大族長エツタクから「此星ごと焼き尽くせ」と命を受けたオルガンズは、一度点火すれば周囲の物質すべてに核反応を惹き起こすアルコン爆弾を惑星の北極に仕掛ける。

ここで三種の超能力(テレパシー、テレキネシス、テレポート)を操るネズミビバー種族のグツキー・グツク少尉(シテ)が登場する。グツキーは異種族である自分を友として迎えた地球の側に立っており、今回はそもそも五人を救援することが目的である。しかし、オルガンズのもとにあらわれたグツキーは日頃の馴れ馴れさもなく開口一番スプリングア族長を「人殺しめ」と語る。オルガンズが決して消えない火をつけた水惑星はじつは無人ではなく、幾十年後に迎える春を深い洞窟で心待ちにするチューリップに似た知性体・半睡人が住んでいたのである。グツキーは

水惑星

一

宇宙船《オルラXI》をテレキネシスで地上に戻し、二度と離陸できぬようにしてしまう。オルガンズと宇宙船《オルラXI》の乗員達は水惑星の大地を逃げ惑い救いを求め天空を仰ぐが、大族長エツタクも僚船も救いには現れず、スプリングア族長は自ら点火した核の業火に焼かれる。そうしてグツキーは「仰ぐ何處に友あらば幽けき命も報われむ」と謡いながらテレポートして消えるのである。

本場面は原作でも名場面として知られる。孤立惑星の未開種族の出自であるグツキーと水惑星の原住民・半睡人の対比、ネズミビバーを友と呼ぶ地球人とわずか敵の五人を滅ぼすために惑星ひとつを燃やし尽くそうとするスプリングアの対比が、鮮明である。

〔面と装束〕

シテ——ネズミビバー種族は名のとおりネズミの頭とビバーの尻尾を有する。面は特製乃至は狐の様な面を代用とする。自称とはいえ「少尉」であり舞台が戦地であるのだから、装いは武人。黄乃至は緋色の衣に烏帽子と太刀を帯びる。幅広の帯により平たい尾を装う。

ワキ——銀河商人スプリングアは人の形であり直面であるが出来るなら顎鬚を生やす。成功し活気溢れる商人の装いである。



ぐ、少尉

鼠面であるが異形の者である証として上顎の一本牙が際立つ。憤怒の内にも奇矯な資質が窺われる。

氷惑星

〔次第〕
ワキ
拍合

幽けき星乃天路越 幽けき星乃天路越

シマンサンゼンヨ コウネン
四万三千余光年

名ノリ「これハ銀河乃星々の商を預りし銀河商人お

るゝがんす氏族乃族長おるゝがんすにて候

さて能く船も通わぬこの邊 銀河乃辺境に興

りし地球と謂う星 近頃我等が許し無く近隣

乃星と交易致す事を聞き早速に銀河商人乃

大族長より命を戴き懲しめんと罷越したるも

氷惑星

一

の、地球乃酋長 我等が諫をば聞入れずさ

ればと捕へし兵五人も抗い逃れ近在の氷乃星

に身を隠し遂せける事 早幾日 斯かる次第な

れば銀河商人乃大族長気色を変じ怒髪天を

突き 氷乃星に潜みし地球乃族共 此星ごと

焼き尽くせとの仰せ 斯くして我船を駆り氷

乃星に赴きまして候

道行
拍合

「彼星ハ氷河雪原荒涼と孤を描く果迄真白な

る 住む者乃証とて無し 鳥獸気配さへ無し

木々草々芽吹く影無し寂れ星 されど銀河商
人の御為に刹那も燃へて輝かば無聊乃月日
も報われむ

上歌
地
拍合

「深々と地に埋込し爆弾ハ物質を象る原子核
融かして天地開闢乃始原乃力を解放つ 遍く
物質を隔無く吞込む反応連鎖乃波ハ静々と然
れど決して止め得ぬ 氷雪寒風土金水総ての
燃へて尽くる迄 決して止まれぬ核火災 氷
乃星の尽くる迄 決して止まれぬ核火災」



氷惑星

氷惑星

二

乃星ハ寂れ星 されど刹那も輝かば無聊乃月
日も報われむ

「さて既に点火仕掛乃細工も流々 急ぎ飛立ち
氷乃星と地球乃兵の燃へ尽く迄を篤と見定
むるが務にて候

「一声」

「一セイ
拍不合

「遍く力ハ是空にして 無智亦無得以無所得故
無が如し有が儘 生れ乍の我力 即ち三種乃
神通力 人乃心を覗う通力 触れずに物を操る
通力 願う所へ一瞬に此乃身を運ぶ通力も只

有が儘 向う儘

名ノリ「これハ鼠海狸族

ぐく少尉にて候 故里ハ地

球に在らず猶遠く氷乃星より辺鄙なる天涯

孤独乃星なれば 一族乃者皆帯ぶ通力も用道

なく 衣絹も知らず荒野乃洞穴に眠り幽けき

陽光の射せば小石大石を投合い興じ日を暮ら

す我独り堪え遣らず 斯かる想を胸中に抱へ

し處 長旅乃途上に寄せし地球乃船 一念発

起 其乃船倉に身を潜め天涯孤独乃星を出奔

氷惑星

三

致しまして候

上歌「体軀三尺三寸三分 尾ハ海狸の如くして首ハ

地球乃害獣と名高き鼠に似て候 言葉を語る

由も無く加へて無闇と妖力を揮う怪物と御覽

じ候 然れど地球乃船乗ハ忽ち我意を推量り

言葉を教へ名を授け住処を供し只友と呼ぶ

クリ「以て此乃身を只友と 只友として遇しけり

ぬばたまの闇き虚空に数多なる星の幽けき群

雲や仰ぐ何處に友あらば幽けき命も報われむ

仰ぐ何處に友あらば



仰ぐ何處に友あらば幽けき命も報われむ

シテ「さて近頃 我友地球乃人々を脅かす銀河商

人乃一族在り 其乃所業もはや商人乃理の内

に在りとも思われぬ 氷乃星に四面楚歌 地

球乃若き兵五人 いざ救わんと馳せ参じ 神

通力にて追手を遠退け 地球乃五人を迎る船

を只々管に待つ腹積り 然れど天意神感を得

て銀河商人乃心を読めば是ハ如何 僅か五人

乃地球人 追詰られ得ぬ腹癒に氷乃星ごと焼

氷惑星

き尽くし痕さえ残さじと非道な企み 時遅く

氷乃星ハ護り得ず されど傲慢なり銀河商人

一言申し述べたき事あれば通力を以て商人乃

船へ罷越したる次第 銀河商人おるゝがんす

氏族乃族長おるゝがんす何處 おるゝがんす

何處 おんや其処に居りしか人殺しめ

「はて是ハ何處より涌しか身乃丈三尺に及ぶ

大鼠 誰か捕へよ退治せよ」無駄なり「摩訶

不思議 何をか語るや大鼠 殊更不思議や体



其処に居りしか人殺しめ

が利かぬシテ如何にもイカ 我通力が其乃体ワガツウリキをば縛シバ
りて候ワキ「何と地球人チキユウビト 通力操る怪物ツウリキアヤツを使役シし
おるとはシテ「畜獸怪物チクジュウケブツと思わば思へオモ 我ワレ只友タトモを
救う者モノなり 救わんと願ネガいし者モノなり 此度コノタビハ人ヒト
殺しおるゝがंसすに一言ヒトコトモウ申し述べたき事コト有り
罷越して候ワキ「何をナニか轉る大鼠サエズ 銀河オ、ネズミを統る帝テイ
国乃商預るアキナヒアツカ 商人シヨウニンの商敵アキナイカタキを御始末オンシマツ致すに鬚一ヒゲイチ
本乃疾ホシしき事コトも有るものか 見よミ 此星コノホシハ住む
者乃証モノとて無しナ 氷乃星コホリ されど銀河商人ギンガアシヨウニンの

氷惑星

怨敵オンテキ焼かんと輝カバヤかば無聊ブリヨウ乃月日ツキヒも報ムクわれむ
愚シテかなり不遜フソソなり 凍りて棲スまぬハ貴行キコウ乃性シヨウ

根 嘆かしや

此乃星ツヨクに廻るコ四季ホシハ百二十三年めぐ 凍シえる冬キハ
八十年ハチジュウネン 五十年後ゴジュウネンに春ハル来らば 陽ヒ差昇りサシノボ 雪融ユキト
かし温ヌルむ大河タイガ乃潤ウルいに 草木クサキ乃種タネも芽吹メフきて
花々ハナバに姿カタチも似ニたる住人スムヒトも半睡マドロミから醒サめ一時ヒトトキ乃
麗ウラらかな日ヒを過スゴさんと 只々タダ、マ夢見ユメミて深山シンザン乃深フカキ
洞ホラにて耐忍タエシノぶ 寂シテれし氷コホリ乃星ホシなれど 命宿イノチヤド

れる星なれば 住人皆乃星なれば

カ、ル 拍不合 シテ 「ワレツス コホリ ホシ マモ エ コホリ ホシ スムヒト

我忘れじ 氷乃星を護り得ず氷乃星に住人

を友と呼びつつ救い得ぬ 我許さじ 此乃船

ハ氷乃大地に引戻し 焼かれる大地に引据て

二度と舞わせハ致させぬ 御待ち在れ 我銀

河乃諸戒に触れし事 露聊も無し 待たれ

得ぬ 無法なり斯くなる仕打ハ理不尽至極

ノルツヨク 地 「アオ コホリ ヤマナミ サエ ヲ イツツ 何時しか其乃

氷惑星

先に天紅々と黒雲の乱れて立ちて攻来る 紅

く連なる炎の柱が一つ立ち二つ立ち 忽ち一

枚の紅蓮の壁が 山を呑み天を呑み おるゝが

んすを呑込みにけり

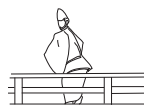
サシ 拍不合 シテ 「ホシ カツ ムラクモ トモワレ マ ムカエブネ

許に帰らん ぬばたまの闇き虚空に数多なる

星の幽けき群雲や仰ぐ何處に友あらば幽けき

命も報われむ 仰ぐ何處に友あらば幽けき命

も報われむ



紅蓮の壁が 山を呑み天を呑み

氷惑星 — 草案 —

初版 平成十八年九月九日 印刷
平成十八年九月九日 発行

著者 嶋主四位
まへあんえとりん
眞願干支淋

編集 若林 雄一  rimdi.
発行者 若林 雄一

二四七—〇〇五二—
鎌倉市今泉三丁目八番十号
Yuichi WAKABAYASHI
3-8-10 Imazumi, Kamakura-city,
Kanagawa, 247-0052 Japan
<http://www.rimdi.org/>
e-mail: yw@rimdi.org

